

# 「日本型」教育TOKKATSU 国際発信へ

東京大学提供  
作成日 2016年 2月19日  
更新日



<b>研究者氏名</b> つねよし りょうこ 恒吉 僚子	<b>所属機関</b> 東京大学大学院教育研究科	<b>関連キーワード(複数可)</b> 「日本型」教育、TOKKATSU、教育モデル、社会情動的スキル(social and emotional skills)、比較教育学、社会学
<b>主な研究テーマ</b> 海外で関心が高まっている特別活動(TOKKATSU)をはじめとする全人的な人間形成教育(通称「日本型」教育)モデルの国際モデルとしての可能性・課題に関する研究		<b>主な採択課題</b> ・基盤研究(A)平成27~30年度(配分総額:26,260千円) 課題名「日本型21世紀対応教育の国際モデル化に関する国際比較研究—多元的モデルの構築」

## ① 科研費による研究成果

グローバル化が進む今日、かつてないほど国境を越えて教育モデルが参照されるようになってきている。今日、国際的に教育の成功例とされる国(例 フィンランド、シンガポール)には、海外からの教育視察団が多く訪問し、教育コンサルティングが産業として成り立つほどになっている。

日本の学校教育はPISA等の国際学力テストでの点数が高いこともあり、国際的には評価されてきた。しかし、日本語の言語の壁もあり、国際発信される情報は少なく、従来は「授業研究」(lesson study)を除くと目立った国際モデルを生んでこなかった。

だが、今日、国際的に狭義の「勉強」以外の社会性等の領域(非認知的領域)をも含めた全人的な教育が国際的に見直されるようになってきている。こうした中で、従来から特別活動(TOKKATSU)他で社会性等を公のカリキュラムに組み込んできた日本の全人的人間形成教育モデルが目されるようになってきている。また、こうした外からの目は、同時に、文化的多様性の尊重等の日本の教育課題を直視し、ガラパゴス化しがちな日本国内の教育改革論議を国際的な文脈で考え直す契機にもなる。

本研究の初年度の成果として、東京大学の下記センター主催の国際シンポジウムや海外招聘者による講演、英語による若手研究者の国際発信力向上を意図したワーキングペーパーシリーズの立ち上げ(1)、英語での関連図書(Routledge)出版契約、英語、アラビア語(右記②の状況により)、中国語によるTOKKATSUのHPの作成、TOKKATSU多言語教師指導書(英語、アラビア語、中国語)の提供、海外でのTOKKATSU教員研修用ビデオの試作品(英語)作成、がある(2)。

(1) 東大教育学研究科附属学校教育高度化センター・プロジェクトのURL、<http://www.schoolexcellence.p.u-tokyo.ac.jp/jpmodel/>。

(2) Educating the Whole Child: TOKKATSU(日本の教育モデルの国際発信サイト)のURL、<http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~tsunelab/tokkatsu/>。

## ② 当初予想していなかった意外な展開

・「日本型」全人的な人間形成教育の一環としての特別活動TOKKATSUを諸外国との関係で研究し始めたところ、社会性等の狭義の「勉強」を越えた教育に国際的な関心が高まっている中で、諸外国での日本のTOKKATSU教育モデルへの関心も高まり、JICAの関与等が重なり、エジプト教育大臣視察団他、海外政府視察団の研修や全人的な人間形成を志向する教育の海外導入のアドヴァイザリー活動に本研究プロジェクトが関与することとなった(1)。

・TOKKATSUのみならず、日本の教育全般について国際発信される情報が圧倒的に不足する中で、現実には、エジプト、モンゴル等での日本の教育モデルの導入が先行している。海外視察団からのニーズに応える形で、モデル借用や全人的な教育モデルの国際比較等の研究と一体的に、海外教育政策関係者・教員への国際発信(例「日本型」全人形成教育のアラビア語、中国語、英語HPや英語でのDVD教材の作成)に力を入れることとなった。

## ③ 今後期待される波及効果、社会への還元など

・今日、各国の教育モデルがグローバルに借用されながらも、表層的な理解のもとでの導入が進められる傾向がある。本研究は「日本型」全人的な人間形成教育の国際モデルとしての再構築や関連研究成果が、既に動いているエジプト等をはじめとする海外の教育改革に教材提供や研修、出版等を通して反映されることが予想される。同時に、海外の教育関係者に自らの教育を発信する中で、日本の学校関係者が自身の実践を再構築、再考、国際化する双方向的な機会となることが期待される。